科目区分	専門基礎分野	授業科目	薬理学総論・各論 （臨床薬理学）
講師	薬剤師	実務経験の有無	有
単位数（時間）	2 単位 30 時間	開講年次	1 年次　第 2 学期
授業概要 ＊講師からのメッセージ	薬物の人体への影響を理解し、薬の取り扱いについて理解しよう。		

目的：薬物の特徴、人体への影響について理解できる。
目標：1. 薬理作用と機序が理解できる。
2. 薬効に影響を及ぼす因子について理解できる。
3. 薬の取り扱い、有害作用について理解できる。
4. 系統別な主な薬剤の作用、副作用を理解する。

回数	授　業　内　容
1	**総論** 1. 薬とは　2. 薬理作用と機序　1) 薬が作用する仕組み（薬力学）　2) 投与経路 3) 吸収、分布、代謝、排泄
2	3. 薬効に影響を及ぼす因子　1) 年齢別の薬効　2) 混合の可否　3) 薬物相互作用 4. 薬の有害作用（薬物の副作用）　1) 薬物中毒がおこる原因　2) 特に注意の必要な対象 3) 血中濃度
3	5. 医薬品に関する法律　1) 劇薬・毒薬・向精神薬等の種類と取り扱い　2) 新薬の開発と治験 6. 消毒薬の取り扱い
4	7. 薬物療法における看護師の役割　チーム医療　1) 処方箋の見方とシステム　2) 薬品の管理 3) 服薬指導　4) 看護業務に必要な薬の知識（薬に関する単位、処方、添付文書）
5	8. 輸液製剤　1) 電解質輸液製剤　2) 栄養輸液製剤　3) その他の輸液製剤
6	**各論** 1. 抗感染症治療薬　1) 抗菌作用のしくみ　2) 抗菌薬の特徴　3) 抗菌薬の種類と特徴 4) 薬物耐性
7	2. 抗がん剤治療薬　1) 抗がん作用のしくみ　2) 抗がん剤の種類と特徴 3) 抗がん剤使用時、副作用軽減のために使用する薬剤
8	3. 免疫治療薬　1) 免疫反応と免疫抑制剤　2) 免疫増強剤、予防接種
9	4. 抗アレルギー薬、抗炎症薬　1) 抗アレルギー薬、抗ヒスタミン薬 2) 炎症と抗炎症薬（副腎皮質ステロイド薬）
10	5. 末梢、中枢神経作用薬　1) 交感神経作用薬、副交感神経作用薬 2) 筋弛緩薬、全身麻酔薬、局所麻酔薬
11・12	6. 心臓、血管系に作用する薬　1) 強心薬、抗不整脈薬　2) 狭心症治療薬 3) 降圧薬、昇圧薬　利尿薬 7. 救急の際に使用される薬物
13・14	8. 呼吸、消化器系に作用する薬　1) 気管支喘息治療薬　2) 消化性潰瘍薬、消化管運動促進薬
15・16	9. 物質代謝に作用する薬物　1) 糖尿病治療薬
17（45 分）	終了試験
授業方法	講義
評価方法	筆記試験(100%)　評価基準参照
教科書	医学書院：系統看護学講座　専門基礎分野　疾病の成り立ちと回復の促進［3］　薬理学
参考書	
備考	特記なし